

地区チーム研修セミナー講話
『「温故創新」ロータリーの心を探ねて』
パストガバナー 松岡 通夫 (神戸)

石井ガバナーエレクトから、101は原点に帰るとい
う意味がある事だそうす。だから、ロータリー 101
年を迎えて、原点に帰るとい事で、一寸話をしてく
れんかという話を伺ったのです。その時に私は、お話を
しますが、題は一寸考えさせてくださいと言いま
した。そんな難しい話は田中さんなら出来るかも知れ
ない。私には出来ない。だから私が石井ガバナーエ
レクトにお願いしたのは、私がロータリーに入ったのは
1970年、30年前です。その入った時のロータリーと
最近のRIとは一寸違うと思うのです。いいかどうかは
私にも解りませんが、一寸違うと思うのです。確かに

ロータリーでも何で
も、時代が変わると
変化しないといか
ん。時代に合ってい
かないといかん。こ
れはよく解りますが、
ロータリーがロータ
リーでなくなってし
まってはいかんと思
いますので、ロータ
リーである以上は、
ロータリーの原点と
いうものを忘れては
いけない。それを見



失ってもらったら、RIはいけないのではないかな。そ
の上で時代にあった事をやっていくという事を、常に私
は思っていますし、常に希望し、常に念願しています。
だからこういう事をベースに、ロータリーの心を探ねて
みたい。その上で温故創新という難しい事を言いま
したけど、その過程で新しいものを作っていくと、こう
いう事でよければしゃべらせていただきます、という事を
申し上げまして、石井さんはしぶしぶですが、OK
されましたので、しゃべらせていただきます。

ご承知のようにRI規定審議会というのが3年に1
回ずつあるのです。それで直前の審議会は去年の
6月でした。シカゴで行われました。規定審議会は何
をするものかという、世界の各地区から選ばれた代
議員が集まりまして、今のロータリーの規則はこれでい

いのだろうかという事を審議する。或いは、意見があ
れば決議案を審議する。従って、審議会のやる事は、
今のロータリーの規則よりも、一寸おかしいのではない
か。だから新しいものに作り変えようと、改正しようと
いうのが趣旨であるはず。だからロータリーの規定
審議会で決まった設定案なり決議案は、現在のものよ
り良いというように考えざるを得ないのであります。これ
がものの道理であります。ところが、これは私一人が
思うのかも知れませんが、最近、去年と言いません。
ここ数年の規定審議会の審議の結果を申しますと、
ロータリーの原点である出席率、1業種1会員制、親
睦、奉仕、テリトリー、こういう事に関して、大幅に規
制が緩和されてきています。それと同時に、ロータリー
の基本は職業奉仕だと私は思っております。そのモッ
トであります He profits most who serves best

を they に置き換えて、残ったと言いましたが、これを
廃止するという問題
が起こった。そして
また、内容はよく
解りません。これか
ら研究せんといかん
と思っておりますが、
リーダーシッププ
ラン、いいのかどう
か解りませんが、実
施時期もまだ決まっ
てないそうですけれ
ども、私が読む限り、
内容も解っていま
せん。なんでこんな事

をするのかよく解りませんが、私の思うのは、これは世
界中の弱小のロータリークラブを救うためだと思いま
す。だから日本のロータリークラブにはあまり関係ない
ことだと思えます。ただしこれはRIにもつきますと、
推奨クラブ細則という事でずっといきます。推奨とい
う事は、皆さんよくご存知のように推奨だから、定款に
反しない以外は、取り扱う必要がないわけです。おま
えが推奨しても、おれいややと言えらるわけ。ところが
RIはどういうわけか、地区リーダーシップの推奨だ
からやってほしい。全部強制的になっている。そうい
う部分を含めて非常に心配のように思えるわけです。
こういう事から考えますと、私も古いロータリアンは、
そういう事をしておると、ロータリーは衰退してしまう
のではないかと、下手をするとロータリー崩壊につなが
るのではないかと、非常にはっきり言って私は危惧しま

す。果たしてそうなるかどうかと、最近一寸思うよう
になったのです。なぜかといひますと、けしからん、原
点に帰れという事ばかり言っておても仕方ないのでは
ないか。そういう事は神戸クラブの50年史で皆そう
言うてました。原点に帰れという事を言っております。
今度の場合はそれとは一寸違うと思うのです。それ
でも果たしてそれでいいのかなと最近思っています。
と言いますのは、先ほど申したように規定審議会と
いうのは、世界中の地区から優秀な代表が選ばれて、
規定審議会に来るわけですね。規定審議会で、設定
案、決議案が通るとい事は、少なくとも過半数以上
の方が賛成しているわけです。という事を考えますと、
多くの方は変わった事はよかったのだと、少なくとも前
のやつより良くなったのだと思っております。そう
しますとこのような変わり方が、これからのロータリーは
変な方向に行ってしまうのではないかと心配しますが、
いえそうではないのだと、或いは21世紀のロータ
リーは、この方向に進まなければならない。私は現在
どちらが正しいのかよく解らんという、はっきり言って心
境です。それほど一寸RIが違ってきているから、それ
でいいのかなという事、反対に言うと、それに賛成し
ているロータリアンが沢山いるという中で、どう考える
のかなという問題だろうと思えます。私は学者ではな
いのでよく解りませんが、一橋大学に伊丹教授とい
う方がおられますが、一つの方程式を出しておられ
ます。これは制度と慣行イコール原理かける環境です。
こういう方程式を出しています。という事は、制度と慣
行というものは、原理かける環境だから、環境は常に
変わります。環境が変わったら、制度と慣行を動かす
か、或いは原理を変えなければならない事を意味して
いるのです。ロータリーの歴史の中でも、こういう経験
はあったのではないかと思っています。だけど私はこう
思うのであって、ロータリーの捉え方というのは、各人
各様だと思っております。それを当たり前と思ってい
いと思うのです。しかし一人ずつの方が、ロータリーはか
くあるべきだというロータリー観をお持ちになるという事
が、まず出発点ではないかと思えます。しかしその場
合に、いかに時代が変わってきても、ロータリーの原
点と私が思っております、出席とか、1業種1会員制
とか、親睦とか、そういうものについては、原理自体
はきっちり求められていく必要があるのではないかと思
います。なぜならば、それを失くしてしまえば、もはや
ロータリーではなくなるのです。このような観点で日々
行っていますけれども、今一度ロータリーの心を探ねる
という副題をつけていますが、ロータリーの原点という

ものを、出席と1業種1会員制と、奉仕と親睦の問
題、私なりに少し触れさせていただいて、そこからどう
するかという判断をしていただく、そうした参考になれ
ば、これほど幸せはないと思っております、心を尋ねて、温故
創新とさせていただいた次第でございます。

先ほど石井ガバナーエレクトからご報告がありました
ように、2005-2006年のRI会長エレクトのステンハ
マーさんのテーマは、SERVICE Above Self と発
表されました。彼のテーマは簡単になるなという事は
解っていました。大阪大会で一寸そういう事を聞いて
いましたから、まさかこれを使うとは思っていませんで
したけれども、もう一つ説明がないとおっしゃってしま
いけれども、彼が書いたものを読んだらこういう事を言
っています。自分の重要な使命を的確に表すテーマを選
ぶべく、これまでの世紀で、ロータリアンが記してきた
数々の叡智に満ちたことばに目を向けて、ロータリーの
標語 SERVICE Above Self の3文字ほど、ロー
タリアンおよびロータリーの精神を言い表した言葉はな
いと思ひ、これをテーマにしたというのが、確かにロー
タリーの人道的奉仕を的確に表した素晴らしいテーマ
だと思ひます。しかしロータリーの基本は、あくまでも
職業奉仕でありますので、職業奉仕のテーマといわれ
ております He profits most who serves best と
いうのを忘れてもらってはいけないと思ひます。1949
-50年のRI会長でありましたホッジスさん、この方
から初めて定款に出てきたのです。赤木さんの時のRI
会長キングさんのテーマが、Mankind is our
business という事でした。その時に赤木さんが、そ
の時私は研修委員をさせてもらっていたのですが、R
Iから夜中に電話がありまして、今度こんなテーマに決
まったのですがどう思ひますか。本当に嬉しかったの
です。私のところに電話があったのが5時頃ですから、
逆算すると1時か2時頃に電話をわざわざいただいた。
その時にまず思ひ出したのが、ホッジスさんの
テーマです。それは Service is my business
でした。キングさんののは Mankind is our business、
ホッジスさんののは職業奉仕の Service is my
business、複数と単数の違いがあります。それ以来
いろんなRI会長がテーマを出しています。しかし、最
近のRI会長は、職業奉仕について、殆んど語った会
長は少なかったと私は思ひます。ところが先ほど一寸
石井さんが感心したとおっしゃってましたけれども、
2002-03年のタイ出身のビチャイ・ラタクル会長、こ
の方は、職業奉仕を明確に述べられて、胸がすくよう

な思いをした事は、記憶に新しいところです。彼のおっしゃっているのは、その時に、優良企業と言われていた新興のエネルギー大手であるエンロンの粉飾決算とか無軌道な経営という事がありまして、それらの事がいかに多くの善意の被害者を出したか。そして世界中に悪影響をもたらしたかという事を、ものすごく嘆じられまして、所謂過当競争はいけない。企業上の倫理を確立しよう。そして高度の道徳的水準を維持しようと言っております。まさにロータリーの職業奉仕宣言の復活ではなかったかと、と申しますのは、毎年、国際協議会で、こういう事を言った方がいらっやいました。その方はロータリーが取り組んでいる慈善事業は、ロータリアン個人の職業よりはるかに社会的な影響があり、価値が大きいものである。こういうふうに言われた事があります。いくら人道的奉仕をしようと、肝心の企業方針、大きな企業がどれだけ世界に悪影響を与えたか。これが最も大事であるという事を端的に申しました。まさにこれがロータリーの行き方だと思います。

ポール・ハリスがロータリーを作った時に、自分は淋しかったというのは、よく言われている事ですが、そしてもう一つ言っているのは、都会の中での孤独感、大勢の人々がいないが、自分に関心を寄せてくれる人は一人もいない。自分一人で生きる事の孤独感、その淋しさから抜け出すために、真の友達付き合いが出来るクラブを作ろうと思った。これがロータリー設立の目的である。真の友達付き合いの出来るクラブを作ろうと思ったと言っているのです。従ってそのクラブの目的は親睦であったはずであります。そこで1業種1会員制が出てくるのですが、その当時の商売というのは、ものすごく厳しいものだったので、同業者は敵視したかもしれない。そういう方がいると、本当の親睦は生まれえないという事で、同業者は排除する。それと同時に、友達付き合いをするためには、もっと知り合わなければいけない。だから出席をするのですよ。ここでもロータリーはよく出来ていると思うのです。そしてまたポール・ハリスは、自分はよそ者で、シカゴの町に友人はいない。そのために職業上の付き合いが、そのまま個人的な友人関係にまで発展できる道を考えていた。そのために職業上の付き合いが、そのまま個人的な友人関係にまで発展できる道を考えていた。それがロータリークラブの結成の動機であったというのです。だから職業上お互いに信頼している方とクラブを作った。それを歴史的に見ますと、最初は自分たちが

けの相互扶助と、互惠思想に過ぎないというようにおっしゃいますけれども、これはそう簡単に喝破してはいかんとおもいます。そういう事だからこそ、アーサー・フレデリック・シェルドンが持ち込んだ奉仕の概念を、素直に受け入れられる土壌がすでに潜んでいたのではないかと考えるべきではないかと、私は思っています。だから今申しましたように、定期的に例会に出てくる。規則的な例会の出席により親睦を養い、互いの関係を真の友達、本当の仲間へ高めると言う事で、そこに入っていった思いやりの心というものですから、RI会長、ビル・ハントレーさん、英国の出身の方ですが、この方のテーマが Be a friend 友達になろうでした。その時にハントレーさんはこう言っています。友達は情け深い。友達は妬まない。友達は自分の利益のみを求めず、恨みを抱かない。友達とは思いやりの心を持ち、身をもって愛を実践する人です。だからロータリアンは本当にみんな友達になろうという事を、RIの会長のテーマにして、友情、思いやりの心、即ちロータリーの奉仕の心を端的に述べられております。しかしロータリーと言うのは、皆さんご存知の通り I serve です。個々のロータリアンが地域社会、或いは究極的には世界平和のために、自分の業界、家庭生活、社会生活というものを通して奉仕しよう。そのためには一寸組織を作ったっていいだろうという事で、ロータリークラブができていないのでしょうか。だからロータリークラブが奉仕団体と言われるかもしれないが、そうではないのです。そうかも知れないけど、本当は奉仕の心を持った人が集まって、奉仕をしようと思っただけでロータリークラブであると考えべきではないかと思っています。皆さんどうお考えでしょうか。親睦がないとロータリーは始まらないわけですから奉仕の実践につながる。これがロータリーの奉仕の哲学だと、私は思っています。だからロータリーはよく、ロータリーは親睦より始まるとよく言いますね。その理由はここにあると思いますし、また共に、よし1回奉仕をしてみようという事で、奉仕の実践に共に取り組むとちょっとお互いが親しくなる。お互いの気持ちもよく解って、お互いの友情、或いは親睦も深まる。そしてさらに真の奉仕につながっていくのです。これをロータリーは、親睦で始まり、親睦で終わると言うのはここにあると思います。だから親睦を培うのは、定期的な例会の出席、それ以外にないわけですからロータリーが出席に拘ってきた。先ほど規定審議会で何か言うておられるけれども、ロータリーが出席に拘ってきた理由はここにあるのです。ロータリーの基本はここに

あるという事をもう一度思い出す必要があるのではないかと私は思います。だからいかに時代の流れと言いましても、face to face の付き合いが全くない。心の交流も全くない。ただネットだけで通信するEクラブというのが認められておりますが、そんなものでやってみたって、親睦のしる字も出てくるはずがないと私は思っています。或いは、最近の若い人は、それが親睦と思っているかもしれませんが、少なくとも私は、そう思いません。

ここでロータリークラブがもう一つ言っています1業種1会員制と会員増強という事に一寸触れてみたいと思います。1999-2000年のラピッツァRI会長は、quantity of quality という事を盛んに言われていました。質の量という事を言いました。quality てなんだ。ロータリーは良質の人と訳してありますが、なぜ良質の人がいるのですか。というのは、その事は解りませんが、1業種1会員制というものでは、その業界から最も良い人をロータリーに迎える必要がある。その人がその業界に帰って、ロータリーの精神を、ロータリーの奉仕の心をその業界に広げていく。ロータリーの倫理を広げていくと。原則的な事を言うておられるようですが、考え方はそうなんです。だからどうしても良質の人がほしい。ロータリーの良質の人というのは、自分一人で世の中は生きていくということは世の中出来ない。これはピアッツァさん、この方がはっきり言っている。ロータリーと言うのは、人間一人では生きていけない。だから共に生きていく。そのためには、相手の事も考えないと出来ないのだと。それを考えるという事が、それを英語でサービスと言います。これを一人一人が職業を通じてやっていくのがロータリーですよ。ロータリーを全く知らない方に、ロータリーとは何かを説明する時に、おっしゃっているのです。これはガバナーズレターのコピーをもらいまして、読んでおります。こういうけれども、それはひとつの理想であって、それを実現するのは並みの事では出来ません。しかし私ども



は諦めないのです。たとえどんな事であっても、一つ一つやって、何とかこれを成し遂げようと常に努力しているのがロータリーであります、という事を言っています。だから良質な人というのは、自分一人では生きていけない。だからこそ人のために役に立ちたいという連帯意識が持てるのです。俺だけが正しいのだという人がロータリーか。そういう人がロータリーで言う良質の人と言えるのではないかと思います。最近では相当基礎規定と言いますか、そういうものが乱れてきておりますけれども、クラブは地域、テリトリーを持っています。そしてロータリーは、全ての有用な職業、ロータリーの奉仕の理想という事ですから、テリトリー内で有用な職業を網羅する、職業分類をまず作るというのがロータリークラブの仕事の最初だと思います。そこからみんなが良質の人を入れてもらう、その方で色々な事をしながら、その地域を良くしていく。そのためには色々な職業分類を必要とする。だからクラブでは、まず職業分類を網羅する。それが必要だと思います。ロータリークラブというのは、ご承知のようにRIを作った。RIは拡大拡大と言っております。これはRIの仕事だから、やって当たり前だと思います。ロータリーの奉仕の理想を実践するために、その地域が地域に作ったロータリークラブである。その地域の中のあらゆる職業から、良質な人に入ってもらう、ロータリー活動を一緒にやって、地域、ひいては国家、世界につないでいこうという動きでないといけないと思いますので、そのところどうしても良質な人、1業種1会員という事が出てくると思います。女性会員で問題になるのは、女性だから、男性だから、男性は一寸入りにくいから女性会員にしよう。これはもう全然ナンセンスです。女性でも職業分類制度に則って、その業界の代表として、良質の人は入る。これが本当の姿です。なぜならば、ご承知のように最初、ロータリークラブは女性を拒否しました。アメリカ連邦最高裁判所で負けた。その時の女性会員を認めた理由としては、一般的なクラブであれば男性だけの会員組織でも良いけれども、ロータ

リーの制度を見ると、これは明らかに職業分類クラブである。classification clubである。とすれば、社会の職業を構成するのは男性ばかりではない。当然女性の職域があるので、女性を拒否する事は出来ない。classification club、職業分類クラブだから、女性を拒否してはいけない。単なる友好クラブなら、そういう事をやってもいいかもしれないけれども、classification clubといっている以上は、女性はその代表として、拒否する事は出来ない、というのが連邦最高裁判所の女性を認める判決の理由であります。こういう事を見ましても、ロータリークラブは職業分類クラブなのだ。そして会員の人に入ってもらって、まず親睦をするのだと、そして親睦からみんなの奉仕の心を培っていく。そして地域なり、色んなところへ奉仕していく。これがロータリーの流れですから、それを守るような規則をどんどん緩やかにしていったら、果たしてこれはロータリーが持つかなと言うのが私の危惧なのですけれども、それでよいと言う人が多ければ、よく解らんですけれども、ここでニュージーランドから1959-60年RI会長になったハロルド・D・トーマスという方がいらっしゃいます。これはロータリーの会長です。この人がこういう事を言っています。ロータリーの基本的な特色の二つである職業分類の原則と、例会への規則的な出席、この二つが次第に希薄になってきた事は憂うに耐えない。この二つは決して奉仕の要素ではない。しかし奉仕を育む親睦の要素である。ロータリーを支えているのは、奉仕を育む親睦である。だからこの要素が直ちにやるものだという傾向にある事を憂うのだと。親睦が出発点であり、ロータリーを支えている基本的な特色であるという言葉です。皆さんいかがでしょうか。もう一度これは考えてみる必要があるのではないかと思います。最近ますますロータリーの基本的な気質がないがしろにされてきていると思えてなりません。そこで勝手にしたけれども、本日の題のロータリーの心を尋ねて、温故創新とした次第です。今日のお集まりは、地区のリーダーのロータリアンの方でいらっしゃいますので、初歩的な事を申し上げて申し訳ございません。さらに断片的、まとまりのない話でお聞き苦しい点があったと思いますが、ご勘弁戴きたいと思えます。

最後に私が常々思っております事を、二つ申し上げて、終わらせていただきたいと思えます。その一つは、日本人のRI会長として最初になられた東ヶ崎潔さんという方のテーマが、participate! 参加です。

日本語訳は参加し敢行しようという事です。敢行はどんでもいいのです。参加しようという事です。簡潔ですけどロータリー活動の核心を突いたテーマであると思います。なぜならば、親睦が基本的特質であるロータリーですから、まず例会に出て参加する事、そこから始めないと意味がないという事で、まず参加しようという事をおっしゃいました。素晴らしいロータリーの核心を突いたテーマであったなと思っています。そしてもう一つは、1983-84年のアメリカ出身のRI会長であったウィリアム・E・スケルトンという方がおっしゃった言葉です。ロータリアンが同僚ロータリアンに対して、犯す罪の最大の罪は、憎しみではなく、無関心である。という言葉です。折角ロータリークラブに入って、そのロータリークラブの会長や役員が、何をしようとするか。これではだめですよという事だと思います。全てのロータリアンが、各クラブや地域、或いはRIからの色々な活動に、自分なりの形で関わっていくというのがロータリーの生きがいだと思います。勿論ロータリーはI serveですから、これをしてはいかんという事はありません。関わり方は自由です。各人各様の関わり方があると思いますが、ただ折角ロータリアンになったのですから、無関心でただの在籍会員だけになってもらうと、これはこんなに詰まらない事はないと思います。私が分区代理の時にガバナーが空地先生です。空地先生はまことに明確におっしゃいました。ロータリーには4つの種類がある。一番いいのは財である。一番悪いのは文句ばかり言う奴です。在籍しているだけの在です。これになってしまうというのは、折角ロータリーに入ったのですから、ロータリークラブに入ったのに勿体ない。だからどんな事であっても、関心を持っていただきたい。この二つを私は常々思っておりますので、私はそれなりに色々な事に関心を持ったり、出席しておるつもりでございますし、それぞれ皆さんがおやりになれば、それぞれのロータリークラブが育つのではないかと思います。以上ロータリアンのお一人お一人が、まず参加するという気持ちをお持ちになりまして、ロータリー活動に関心を示してもらいたい。それぞれがご自分のロータリー観を培って、ロータリーライフをお互いにエンジョイされます事をお願いして、話を終わらせていただきます。ご清聴有難うございました。